訪ねてみよう

主への贈り物

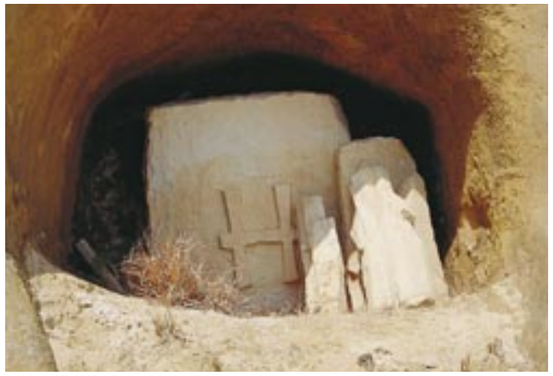
横穴墓の入口に置かれた土器想像図

これまで、古墳の場所探しから始まって、主の眠る場所までを探検してきました。でも、何かものたりません。

「古墳の中には、その主とともに多くの宝物が眠っているはず……」

そのとおり。古墳といえば、宝物を忘れることはできません。

しかし実際には、すでに朽ち果てていたり、後世に持ち去られていたりして、発掘しても何も見つからない場合がほとんどです。それでも、これまでの発掘調査によって多くの遺物が出土し、資料館などに保管されています。また現在もどこかで、発掘調査によって眠りから覚めようとしている遺物もあることでしょう。ここではそうしたさまざまな遺物が、いつどこに行けば見られるのかを紹介したいと思います。



北小原横穴墓（松江市西浜佐陀町）

コラム　遺物の見方

古墳から出土する遺物には、いろいろな物があります。ここでは主とともに納められていた「副葬品」と呼ばれる遺物の当時の使われ方について一つの見方を紹介します。

●主のアクセサリー？

主の頭部があった位置を中心に、よく出土する遺物があります。おそらく生前から身に付けていたと考えられるアクセサリー類で、勾玉などのネックレスや、櫛、耳飾りと考えられる耳環、珍しいものとしては、釧と呼ばれる腕輪や、金の冠などがあります。

●主への贈り物？

棺内、あるいは石室内から出土する遺物として、銅鏡や、剣・太刀・鏃・甲などの武器類、鋤先・鎌・斧などの農工具類、馬具などがあります。これらの大部分は生前の生活に関わるものと考えられますが、実用品とは思えないミニチュアもあります。

●葬式の道具？

墓穴の上や入口から出土する遺物は、食事をするための土器類が中心となります。葬式のときの道具として使われたものでしょうか。また、横穴式石室や横穴墓にはたくさんの土器が入れられていますが、これらは贈り物として埋められた食器類かもしれません。

いつでも見られる遺物

古墳からはいろいろなものが出土します。墳丘の上に立てられていた埴輪もその一つですが、みなさんがいちばん興味のある物は、やはり棺の中に納められた品々でしょう。

【八雲立つ風土記の丘資料館】

松江市大草町　0852（23）2485

県内でもっとも多くの遺物を展示しており、有名な古墳の出土品も見ることができます。日本中をあっと言わせた、文字の書かれた刀（岡田山1号墳出土）や、「卑弥呼の鏡」として騒がれた銅鏡（神原神社古墳出土）も展示されています。復元された土器や埴輪も多く、「見返りの鹿」は、その完成度の高さに、思わず立ち止まって見入ってしまいます。古墳出土以外の考古資料も多く、また周辺には有名な古墳がたくさんあります。

【島根県埋蔵文化財調査センター】

松江市打出町　0852（36）8608

県の発掘調査の基地にあたり、あちこちの遺跡で出土した遺物はここで整理されています。小さいながら展示室を備え、発見されたばかりの遺物や写真を見ることができます。近くには古墳公園もあり、入門コースとしては最適です。

このほか「歴史民俗資料館」などがある市町村（学校や公民館の場合もあります）も多く、ここで地元で出土した遺物を見ることができます。

現場で見る遺物

島根県埋蔵文化財調査センターや、市町村の教育委員会では、毎年どこかで古墳の発掘調査を行っています。調査の様子は遺跡説明会という形で一般に公開されていますので、ぜひ参加してみてください。古墳から剣や玉などの遺物を、実際に出てきたままの状態で見ることができるのはこの機会だけです。わからないことは、質問すると説明係が答えてくれます。また、家の跡や土器を焼く窯など、古墳以外の珍しいものが公開されることもあります。遺跡説明会が行われる日時や場所については、テレビや新聞などでお知らせしています。

配られたパンフレットを見ながら、発掘調査員の説明を聞く。

出土品は、仮設の展示場で見ることもできる。ただし、壊れたままのものが多い。

コラム　残るもの、残らないもの

古墳から出土したものは、一〇〇〇年以上もの年月により、ほとんどが傷んでいたり、朽ち果てたりしています。われわれが現在見ることができるのは石や金属製品がほとんどで、着ていた服や弓、刀の鞘など、布や木で作られていたものが残ることはまれです。金属の場合はさびていることが多く、金メッキされたものだけが輝きを残しています。

当時のおもかげを残す遺物は少ないのですが、それでもこくわずかな手がかりや埴輪の形などから、積極的な復元が試みられています。教科書や図鑑などでよく見かける「想像図」の古代人の衣装や道具は、全くの作り話というわけではありません。